



～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会
2010 年 夏 号
第 63 号



茶畑
～奈良市水間町にて～

目 次

■平成 22 年度女性委員会について	・・・・・・・・ 藤山 久仁子	1 ページ
■女性委員会建築見学会 ～早春の琵琶湖畔 佐川美術館～	・・・・・・・・ 竹上 由美	2 ページ
■最近の仕事から（1） “寝室設計の顛末”	・・・・・・・・ 岩城 由里子	4 ページ
■平成 22 年度 通常総会 及び 1300 年祭事業	・・・・・・・・ 宮崎 眞友美	7 ページ
■今後の事業予定	・・・・・・・・	10 ページ

平成 22 年度女性委員会について

藤山 久仁子

平成 22 年度 (社) 奈良県建築士会総会で承認いただき本年度の女性委員会委員長をお引き受けすることになりました藤山久仁子です。総会前に委員会を開催したことも有り、大勢の方に総会に出席いただき、会員の皆様にも日頃あまり目にすることの無い女性委員会の存在を大いにアピールする事が出来ました。



歴代の女性委員長の実績に比べ、脆弱であり経験も不足していることを非常に不安に思っておりますが、最小限 事業の正常な運営と皆様の御意見のまとめ役となって2年間がんばりたいと考えております。

さて、本年度は平城遷都 1300 年祭記念行事への参加という大きな事業を昨年度より引き継ぎ、すでに安田事業委員長や各副委員長を筆頭に委員の皆様一丸となってがんばっていただいております。それぞれ仕事をしながら主婦であり、母であり、嫁でありと大きな荷物をかかえた上での夜遅くまでの準備活動に、いざとなった時の女性の力の偉大さを感じると共に頭の下がる思いを抱くのは私だけではないと思います。

実際に活動されている方たちは今どのように感じておられるのでしょうか？もちろん忙しい合間をぬって、御主人や子供さんに「ごめんね！」という気持ちいっぱいでおられることはひとまず少し横に置いて

たとして、少しは横の繋がりみたいな物は感じられませんか。仕事には直接結びつかない知識かもしれませんが、無駄ではない何かを感じませんか。私はこれが建築士会のメリットだと考えています。現在ほしい情報はいろいろな手段で、それぞれの場所にいながらにしてすばやく手に入ります。けれども人との会話や議論・討論そしてその中から生まれる答えの中から身につく事も多いのではないのでしょうか。

同じ建築の仕事をしていてもその分野は様々、また家庭の都合で今は現場から離れている人たちにとっても色々な人たちとのかかわりの中から刺激を受けることも多いはず。

9月18日には近畿建築士会協議会女性部会の合同見学会を奈良県主催で平城宮跡（第1次大極殿）において開催いたします。また、平成23年度には全国女性建築士連絡協議会が京都府で、建築士会の全国大会が大阪府でと私たちのすぐ近くで開催されます。県内だけでなく全国の女性建築士の活発な活動を肌で感じられる貴重な時です。是非たくさんの方に仲間になっていただき、ぜひ参加していただきたいと願います。

最後になりましたが、本年度の委員会が平城遷都 1300 年祭記念行事参加準備の為なかなか開けないのでここに本年度の委員会体制と事業計画を発表させていただきます。

○女性委員会体制

担当副会長 上田 壽子 (奈良支部)

委員長 藤山 久仁子 (高田支部)

副委員長 本保 万貴子 (生駒支部)

近畿建築士会協議会女性部会
全国女性建築士連絡協議会担当

〃 岩城 由里子 (生駒支部)

勉強・見学部会担当 ・ 会計担当

〃 山本 規子 (桜井支部)

UD部会担当

〃 杉田 数代 (奈良支部)

茶室部会担当

部会長紹介及び活動内容

- ・ 勉強・見学部会 岩城 由里子（生駒支部）
研修見学会の計画・実施
- ・ UD部会 武市 啓子（奈良支部）
前年度までの見学調査物件の資料化
関係団体へのアピール
- ・ 茶室部会 青木 順子（奈良支部）
前年度までの見学調査物件の資料化

※フープ編集担当 中西 佳奈（天理支部）
前田 晴子（奈良支部）

委員会委員の方は、全員各部会に分かれて所属して活動をしていただきますので、特に希望のある方は早急にお知らせください。また、奈良県建築士会の女性会員はすべて女性委員会の構成員です。興味のある部会へ是非ご参加ください。

○平成22年度女性委員会行事・予定

平成22年5月20日（木）

（社）奈良県建築士会 通常総会

平成22年6月4日（金） ～ 6月5日（土）

越前・加賀探訪の旅（合同事業）

平成22年7月1日（木） ～ 7月3日（土）

平城遷都1300年祭記念行事

平城宮跡 交流ホール

平成22年7月16日（金） ～ 7月17日（土）

建築会館ホール（東京）

平成22年9月18日（土）

近畿建築士会協議会女性部会合同見学会

平城宮跡 奈良文化財研究所講堂

第1次大極殿見学

平成22年10月22日（金）～23日（土）

第53回建築士会全国大会（佐賀県）

平成23年1月末 見学会・新年懇親会

平成23年3月初旬 女性委員会単独見学会

1日日帰りコース

以上です。無事事業の遂行が出来ますように御協力よろしくお願いいたします。

女性委員会建築見学会

早春の琵琶湖畔～佐川美術館～

所在地 滋賀県守山市水保町北川2891

竹上 由美

平成22年2月27日（土）、今回の目玉はなんと言っても佐川美術館であろう。この美術館は、平成10年、佐川急便創立40周年を記念して開館した。恥ずかしながら私は、何の予備知識を持たぬままに参加していた。この建物もまた、最近では見飽きてしまった、堅牢で冷たい印象の打ちっぱなしコンクリートの箱に違いないと、勝手な想像をしていたからである。

入場口を通ると軒の出の長い大きな切妻屋根がふたつ、堂々とした端正な姿を現した。揺らぐ水の上に浮かぶ柱は厳島神社を連想させる。その向こうには、丸みを帯びた緩勾配のチタン屋根が静かに光って見えていた。その清らかで凛とした美しさにしばし見とれ、期待は一気に高まる。

明るい本館内は段差がなくてゆったりとしており、建物の周りを囲む水面が形を変えてちらちら揺らぐ。ぼんやり眺めながら、カフェでいただくお茶の美味しかったこと。気がつく屋根にはトユがない。雨の強弱、雪の落ちがそのまんま心に届くことだろう。

案内人に導かれ、通路を抜けて別館へと進む。こちらは作陶家楽吉左衛門氏の設計草案のもと、竹中工務店の設計施工によって平成19年に建築された。当代の作品展示館と茶室からなる地上1階地下2階のRC造である。本館廊下を抜けて、自然と水に沈む感覚で地下に下りて行った先は、驚くほど暗かった。壁はグレーブラックのコンクリートで、杉の焼き板模様が柔らかい印象で迎えてくれる。薄暗い中、「守破離」と書かれた額が目に入る。守りつくして破るとも本をわするな…千利休の教えであり、この茶室のコンセプトであるという。寄付に至る路は奥にいくほど狭くなっており、巧みな遠近法でいっそ

う奥まって見える。床には枕木の廃材が敷かれていたが、薄暗い足元に配慮し油の抜けた滑りにくい物を使っている。寄付には大きな自然木のテーブルが据えられており、端には炉が作られて暖がとれる。これはタガヤサンという古木で、据え付けの際には屈強な男性が6人がかりで運び入れたらしく大地に根をはり、すくとそびえる圧倒的な姿に思いを馳せる。

さらに進むと、明るい水路地に出る。ここは地上の光を取り込んだ大きな円形状の空間、しいて言えば大きな井戸の中から空を見上げる感じ……。井戸枠の内側を水が滑り落ちるのだが、張り詰められた石の凹凸や突起させた目地で水が跳ね上がり、しぶきの変化が飽きさせない。この大きな井戸の一部は水庭に顔を出しているため、内側に流れ込むのも水庭の水であると思われたがそれぞれ別物であり、この空間のみで水を循環させているとのこと。苔を生やさず、常に澄んだ水で客人を迎える為に考え抜かれた工法なのであろう。足元にはジンバブエ産の黒御影石。荒々しいノミの跡だが、確実に石目を読む熟練した異国の石工の姿を見る。

中潜りを抜けると再び薄暗い空間へと進む。俗界とは空気が変わり、背筋が伸びた。階段を上がると、光を映した埋蹲が美しい水をたたえており、覗き込むと気持ちが静まる。

傍らには小間「盤陀庵」が息を潜めていた。こうぞをそのまますいた和紙がロールカーテンのように二枚重ねて吊るしてあり、壁の役目をする。その隙間には、三角断面の亚克力棒が縦に数本はめ込まれており、小間内から眺めると、スリット窓から差し込む光が竹のシルエットを創りだす。この絶妙な位置にある窓が、水庭に浮かぶ葦や姫蒲の色合いを導き入れ亚克力棒に反射して和紙を染め、初夏は緑、晩秋には渋茶へと室内を色づかせるそうだ。よくもまあ緻密な計算をされたものだと、感嘆の声があがった。

履物をそろえた階段の数段先に、水庭を一望出来

る上階にたどり着く。畳を敷き詰めた折廊下と八帖の和室からなるこの明るい広間は、名を「附仰軒」という。水庭の水面と畳のラインは同一で水に浮かんでいるかに思える。割り肌の石は、畳との境の部分が火で焼かれ、つるりとしており、水際のように光って見えた。外部とは、なめらかな無反射ガラスで仕切られているので景色がそのままストレートに迫ってくる。まさに「庭屋一如」「アウトドアリビング」か。四季は勿論、時間や天候によって異なる景色が心ゆくまで味わえるだろう。西の山に沈む夕日と鳥の群れ。細い三日月が空を渡り、白い雪が舞い落ちる……。目を閉じて時々様子を思い浮かべてうっとりする。遠くに奥比叡の山々を望み、水面では2メートル近くの葦や姫蒲が風にたなびいているが、水没した島にしっかりと根付かせつつも、泥の粒子が流れ出すことなく水を汚さない技術。

見上げると、屋根下地の竹材が目に入る。焼模様の付いた竹を垂木に使った、見事な煤竹天井であった。見た目には判らないのだが、丸竹の節の部分をくり貫いて接着樹脂を注入することで、竹の割れを防いでおり、五十年間は裂けない自信があるとのこと。ふわりとした備後畳の感触に贅沢な安らぎを覚え、いつまでも去り難い空間であった。憎らしいほどのいたずらとこだわりの演出。ありったけの技術を注ぎ込みそれに応えた職人技。葛藤と思考錯誤を重ねながらも、目指す方向に進んだ姿がしのばれる。当代が仕掛けた心地よいもてなしのトラップに、まんまと引っかかった私は、間違いなくこの場所のリピーターになるのだろう。四季のある国に生まれ、その移り変わりを楽しみながら、寄り添って暮らすしつらえの知恵……。この美術館との出会いを与えて頂いた事に感謝しつつ、自身のあり方を自問自答する一日となった。



佐川美術館、樂吉左衛門館・茶室

最近の仕事から（１） “寝室設計の顛末”

岩城由里子

今年度、このコーナーの原稿を書かせていただくことになりました。諸先輩方がいらっしゃる中まだまだの身の上ではございますが、今の自分の仕事について書かせていただこうと思います。今回はあまり差しさわりのない実家のリフォームの話です。最近と言いましても１年半くらい前の仕事です。

両親は健在で（父 79 歳、母 81 歳）父は一日家では向かっていますが、母は活動的で週のうち半分以上は家にいません。父は母を“家外”と呼んでいます。（“家内”ではなく）

２年位前のある日、母が階段から落ちて大変だと父から電話があり、病院に駆けつけたところ背中を強打したけれど骨折せず打撲で済んだとのことでした。しばらくは痛いと言っていましたでしたがすぐに元気になって、また“お出かけ”が再開していました。ちょうどその頃、仕事が暇になっていた私は「この前のこともあるし、これを機会に１階の客間（和室）を寝室にしたら？１階を寝室にしたら生活が楽になるよ。」と提案してみました。「そうね、それもいいわね」と母も賛成し、普段ほとんど使っていない８畳と６畳の２間続きの縁側付き和室を、夫婦の寝室と母の部屋にすることになりました。

そんな提案をしてはみたものの、リフォームするべきかどうかは私自身も疑問でした。和室には一間の床があり「真」の形式で長押のせいも大きく、あっさりしているものの格式のある風な座敷でした。使われている材が単板練りつけの材のせいか、いつまでもキチッとした感じで「最近の旅館か舞台みたい」と父はよく言っていました。寝室にするのもどうかと思うような和室でしたが、絨毯でも敷いてベッドや椅子を置くのも一つの方法です。（両親は長年ベッドで就寝していたので、いまさら毎日布団を敷くわけにもいきません。）リフォームをしたらこの和室より粗末な空間になっては絶対ダメだと思えば、無垢材を使うにしてもそれなりの設計をしないとイケないなあと思いました。

母は、リフォームするなら縁側を無くして南西の角の壁を取って窓にして外の緑をパノラマで見たい

と言いました。角の壁を取るのには勇気のいるものですが、仕口ダンパーの資料を取り寄せて壁量に対応できるかどうか計算してみました。この部屋は平屋ということもあり（上階がない）、２つの壁に仕口ダンパーを４個ずつ付けて窓にすることにしました。１間半の開口が角の柱から南と西に広がります。ここでまた一つ、母は掃き出しが好きだと言いましたが、寝室は腰窓の方が落ち着くから少し低めの腰窓にしたほうが良いと言いました。木を多く使う寝室にしたかったので窓も木製で作ることを検討していたのですが、今まで２階の東向きの寝室でぬくぬくと眠っていたことを思うと、木製の場合どうしても避けられない冬場の隙間風は良くないだろうと思い、アルミサッシにしました。両窓には３枚の障子を入れて開けると壁側に納まり景色を遮らないようにしました。閉めると落ち着いた空間になります。

天井の高さは、私にとってはぎりぎりの設計になりました。元の和室は天井高さ２６５０。普段、住宅設計では天井高さは出来るだけ抑える設計をしています。天井に木を張った場合は天井が低く感じるものなので、許せる範囲ということで２６００にしました。リフォームはどうしても元の空間からの比較になるので、元々高い天井だった空間が２０センチでも低くなると、「あら、なんだか天井低いわね・・・（“狭くなった”の意）」と言われかねませんので。（笑）

寝室の隣室（元６畳和室の押入だったところ）にトイレを新設しました。母は「そんなのいらないわよ、あっちのトイレまで歩いていくから。」と言っていました。冬の夜中のトイレに絶対便利だから、と強行しました。“あっちのトイレ”は１階の一番離れた場所にあり、玄関を通り長い廊下を歩いているといけません。（もしパパが寝込んだりしたら介護が大変でしょう!!（心の声））トイレの外壁側の壁は筋交いが入っているので窓はつけませんでしたが、出入り口の引き戸の格子から十分明るさを取り入れることが出来ました。換気は２４時間換気扇をつけました。

元の座敷の床が無くなったので、軸を掛けることの出来る簡単な床を作ることも一つの課題でした。

「ベッドの間に床か・・・。」高さ関係や空間のつくりが、床（畳）に座るのと板の間のベッドの空間では随分違います。部屋の入り口正面に壁床を作りました。歩いて部屋に入ったときに軸を見るのにちょうど良い高さになるようにしました。「毎日掛け軸を目に出来るのがよかった」と竣工後両親が言っていました。杉の一枚板の床板は浮かしましたが、あと3センチ低くすれば良かったです。実家に行くときよく青磁の香炉が置いてあります。

壁は漆喰塗り、床は三陸赤松（節無）、天井は吉野杉（上小）、杵類は全て吉野杉、障子は赤杉、格子扉やクローゼット扉はピーラー（松）、戸襖の紙は鳥の子3号紙の京唐紙、隣室窓のロールスクリーンは松材。開口部や扉のデザインをするのは毎回楽しみです。

照明器具も毎回あれこれ考えて選びますが、今回は両室ともペンダント照明にしました。天井が板張りの場合は大きなシーリングをつけるとせっかくの天井が荒らされます。また天井が高いので光の位置を下げるほうが落ち着きます。失敗したと思ったのは、寝室の照明器具。10畳ほどの部屋に見合う大きめのものを選びました。寝ているときに直接電球の光が目に入らないように、下面にもシェードがついている軟らかい光のものにしましたが、球の取替えがとても面倒です。年末に「電球切れたけど取り替え方が分からないから来て」と電話がかかって来ました。下面から容易に取替えできるものにすれば良かったです。何事も自立が目標です。

出来上がってみると両親とも喜んでくれて一安心です。特に父は、私が語らずして意図して設計した細かい寸法を、考えられた調和としてよく理解してくれたのが嬉しかったです。母は、寝室が1階になって本当に生活が楽になり、特に畳んだ洗濯物や衣類を持って階段を上り下りしないでよかったのも助かる、と言っていました。

「知り合いが見に来たときには、天井が吉野で、床は三陸。国産材を使っていると言うことを伝えてよね。そこのとこ大事な事だからね。」と言ってあります。

いつも「施主にとってこれが良い」という信念の

もとに設計していますが、無垢の木や自然素材に囲まれる暮らしがいかにかに人のからだに優しいかということは、出来上がると一番に理解していただけです。今回のリフォームも、母とは意見が違ってもありこちらが先導することもありましたが、両親が健康で長生きしてもらう為の娘の真心だということは、竣工後に分かってもらえました。



寝室のコーナーを窓に



寝室の窓辺に座って



寝室と隣室とのつながり



隣室



いろいろな建具



新設トイレは手摺つき



トイレの信楽焼手洗いと格子戸（ワーロン紙）

○総会

平成 22 年度 通常総会が平成 22 年 5 月 20 日(木)

15:45 から奈良県文化会館に於いて開催。



(写真左) 平成 22 年度 奈良県建築士会通常総会。(右) 『1300 年祭』の年にふさわしく、例年よりもたくさんの女性委員会会員が総会に参加し、その存在をアピールしました。

1 開会の辞

2 物故者に対し黙祷

3 会長挨拶

4 来賓祝辞

5 議事

第 1 号議案 平成 21 年度事業報告について

第 2 号議案 平成 21 年度収支決算について

第 1 号報告 監査報告

第 3 号議案 役員の選任(案)について

第 4 号議案 平成 22 年度運営方針及び事業計画について

第 5 号議案 平成 22 年度収支予算(案)について

第 6 号議案 終身会員の承認について

6 その他

7 閉会

以上の項目で 予定通り 無事に終了しました。



笑顔あふれる総会直後の休憩時間



7 月の出展当日に向け、熱い議論中



1300 年祭記念出展について総会で発表

そして、総会での女性委員会のPR活動として 安田1300年祭事業委員長と藤山新女性委員長が 7月1日～3日に行われる 1300年祭記念出展について発表致しました。また、例年よりたくさんの女性委員会のメンバーが集まった事でかなりのPR効果が高まったように思います。

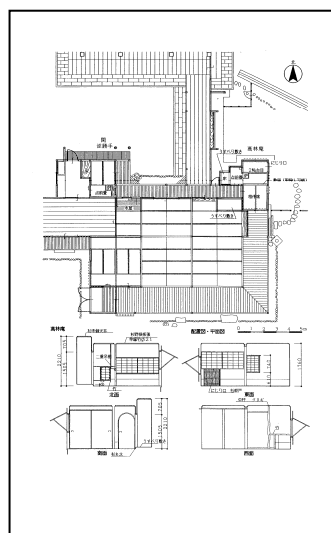
○ 総会前会議

時間が前後して恐縮ですが、総会より約2時間前の13:30から 同奈良県文化会館において 女性委員会(1300年祭事業)全体会議 が開かれました。その会議内容は、

1班・・・茶の伝来

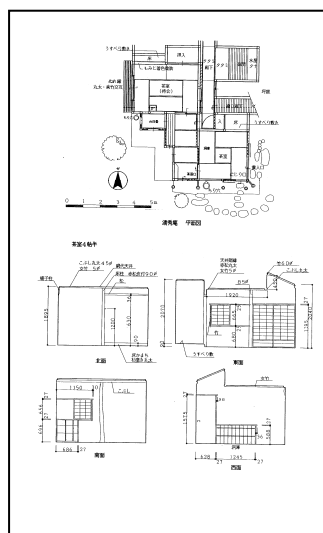
茶筌 赤膚焼

ポスターについて 等



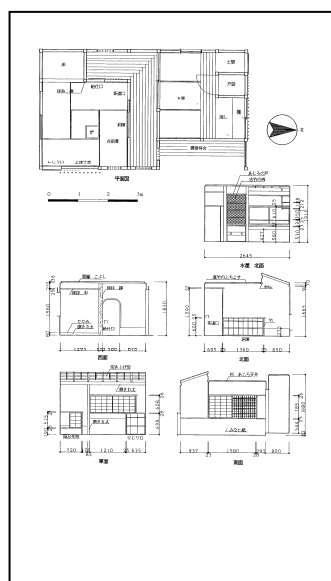
慈光院(高林庵)

2畳台目席の点前座の奥に床という構成で、2畳台目と広縁の間に2畳の相伴席があり、この茶室は4畳台目としても使われます。点前座の勝手付きの亭主床は、石州が好んだ形といわれています。



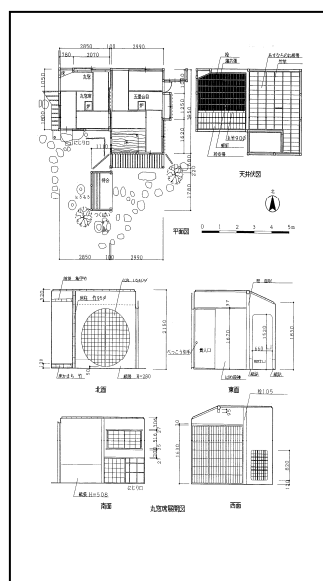
依水園(清秀庵)

6畳台目と4畳半の茶室(裏千家又隠の席の写し)、水屋からなっています。6畳に用いられている襖は5ツ揃いのつぼつぼ引手でしたが、今では3ツや2ツになっていました。



長谷寺(茄藻庵)

天井は網代の平天井を2本ずつの女竹の竿縁で押え、掛け込み天井には付き上げ窓がついています。天井廻り縁がそれぞれ趣向をこらしてあり、こぶし、真竹、磨き丸太、杉と四方すべて違って



當麻寺中之坊(双塔庵)

躰口は片開きの板戸に内部には片引き障子をはめ込まれています。床は、貴人畳の角に長三角の付け床となっています。床柱、床框、落と掛け共竹を用いて、床の入隅は、塗り廻してあります。その床の横に、大きな円窓を切って・・・

2班・・・10件のパネル展示

『大和茶室探訪』再版に際しての編集
チラシについて
うちわについて

3班・・・原寸茶室製作

起し絵について

以上のような項目について 各班長を中心に各班の進行状況の報告がありました。

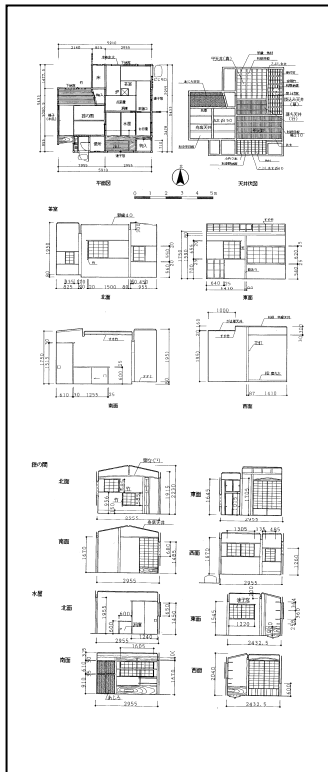
この会議は 全体を通してのそれぞれの役割を考える良い機会となりました。

○ 10件のパネル展示

以下は 上記の中から 2班の

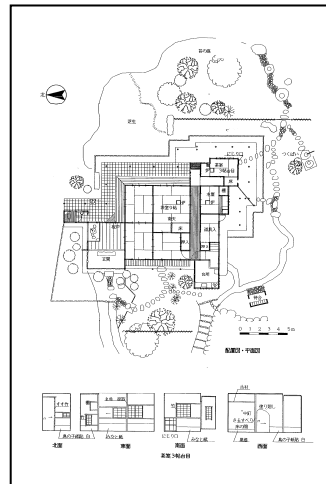
・10件のパネル展示(予定かつ一部)

を載せさせていただきます。



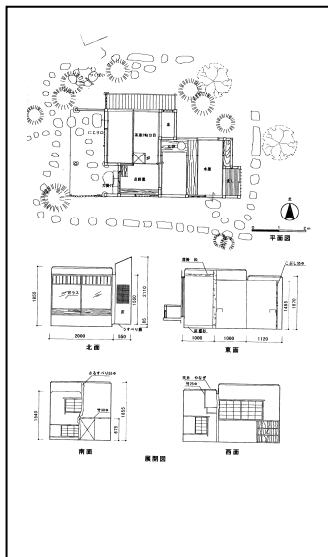
室生寺(知水庵)

入母屋の瓦葺で、軒先は
桧皮葺きとし、さらに桧
皮葺きの出廂を四方に
回らせてあり、内部は四
畳半の茶室、水屋、控え
の間からなっています。
控えの間に「知水庵の
記」と書かれた掛物があり、この地に弘法大師が
中国から茶種を取り寄
せ大和東北部、南山城一
体に製茶が盛んになっ
たと記しています。



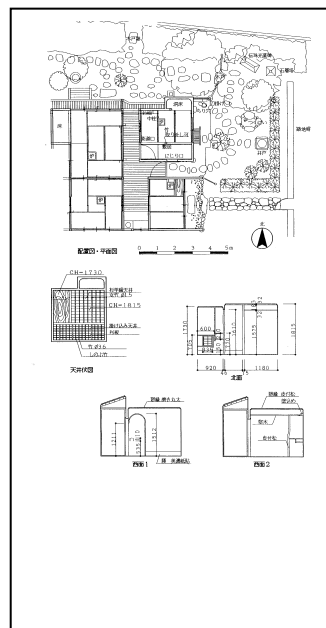
吉城園

茶室は苔の庭にあり、
木造平屋建茅葺で、9
畳、5 畳、6 畳、3 畳
台目、水屋からなっ
ています。9 畳の床柱に
は南天が使われてい
ます。



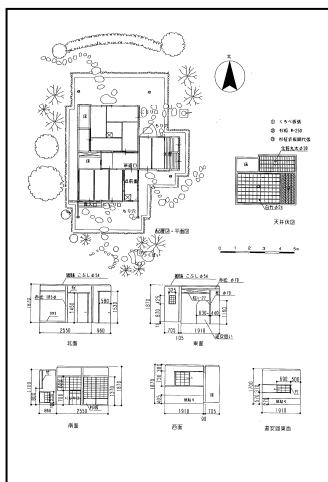
西大寺 (六窓庵)

その名の通り六つの窓
があります。2 畳台目、
水屋からなっていて、天
井は爆竹の上に土をの
せた大和天井が用いら
れています。点前座の天
井は柳が編み込まれて
います。



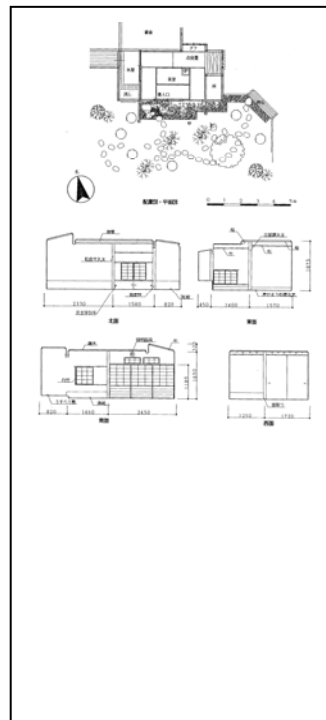
称名寺(獨慮庵)

4 畳半敷上り台目で洞
床があり、台目柱を立
てて炉を台目切とし、
二枚障子の貴人口を設
けています。但し中央
に竹の柱を立て移動式
の敷居と壁、および二
枚の襖によって3 畳席
と1 畳半の相伴席の茶
室としても使用できま
す。



志賀直哉旧居

床脇は地板を敷いただ
けの台面で連子窓がつ
いています。天井は目透
しの平天井と、蒲の落天
井からなり、それぞれ女
竹の竿縁が用いられて
います。



當麻寺奥院(慈教庵)

4 畳道安囲いの席、4
畳半の席、水屋から構
成されています。4 畳
道安囲い席は点前畳 1
畳の所に壁を設け通
い口をつけ、客座3 畳
とを区別しています。
向切の炉に、勝手付の
一重棚が設けられ、貴
人口と躡口は、南側に
並べられています。床
は檜框付の室床とな
っています。

以上の10件は 私達2班が 会議に会議を重ね 諸般の事情も考慮しながら選ばせて頂きました。
そして今は、7月の熱い中 会場まで お越し下さった方々に 少しでも 『お茶室の良さ』 を伝えることが出来ればとの思いから、委員全員が共通意識を持って 7月当日に備え、勉強している最中です。
諸先輩方の残して下さいましたすばらしい遺産に改めて感激し、そこに新たなスパイスを付け足す役を与えられた事をとても誇りに思うと共に、非常に身の引き締まる思いです。

2010年6月10日(出展まで・・・ あと20日)。



吉城園

～～平成22年 今後の事業予定～～

- 7月1日～7月3日
平城遷都1300年祭記念事業(展示等)
～茶の文化発祥の地 奈良～
- 7月4日(日)
2級建築士学科試験
- 7月16日(金)～17日(土)
全国女性建築士連絡協議会(東京)
- 7月25日(日)
1級・木造建築士学科試験
- 8月25日(水)
平成22年定期講習(奈良県産業会館)
- 10月22日(金)
全国大会(佐賀県)
- 11月24日(水)
平成22年定期講習(春日野荘)

編集後記

今年度のフープは前年に引続きの中西さんと新任の前田で担当させていただきます。今号より夏・秋・冬・春号の呼称が復活となりました。1300年記念事業の準備で大変お忙しい中、原稿を快く書いていただいた方々にお礼申し上げます。

かつて建築業界から離れていた私は、フープより刺激・励み・学び等、様々な事を受けとても元気づけられました。そんな自分が今回編集に関わるとは不思議な想いです。至らぬ点が多々あると思いますが皆様ご指導どうぞよろしくお願い致します。

「大和茶室探訪 第1巻」(¥2000)が再版されました。事務局にて販売しております。

(前田 晴子)